

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1070201627		
法人名	株式会社ケア・グループ		
事業所名	グループホーム花丘		
所在地	高崎市南大類町1307-6		
自己評価作成日	令和4年1月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php?action_kouhyou_pref
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和4年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念を常に頭に置き、職員全員で積極的に意見を出し話し合い、お互いにカバーし、利用者様一人ひとりに合った安全安心、穏やかな生活ができる様、支援させて頂いています。又、食事は専門スタッフを配置、手造りで温かくそして、利用者様に季節を感じて頂けるように工夫して作っています。その人の今を大切にする。そばに寄り添い話を聞き、不安を取り除けるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月発行のホーム便りの中で、事業所の方針や行事などの全体的様子を伝えると共に、利用者個々の様子も文書と写真で伝え、あわせて、意見や感想などをお聞きするなど、家族とのかわりを重視した取り組みをしている。利用者に対しては、毎年1回、個々の利用者から聞き取りアンケート調査を実施して、思いや意向を把握し、支援につなげている。また、食事面においては、利用者の好みのもの、食べやすいもの、季節のものなどを献立に取り入れ、専門スタッフが手づくりで調理した楽しい食事となるよう支援している。身体拘束をしないケア実践においては、拘束せずに転倒防止などを図る工夫や、行動を抑制する言葉の問題などにどのように対処するかなど、具体的事例を話し合い、身体的拘束をしないケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、引継ぎ時に、みんなで唱和し確認し、実践するように心掛けています。	毎朝、引継ぎ時に理念を唱和し、確認し合うとともに、年に1回、理念についてどのように考えているのかを職員に自由に書いてもらい、理念を再確認したり、理解を深めたりしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、書面でのお知らせにしています。	隣近所とは、挨拶を交わしたり、野菜をいただいたりしている。コロナ禍で中断しているが、コロナ禍前は、事業所の花火大会には近所の方に声かけし、子供たちの参加をいただいていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為、運営推進会議は、職員で行い書面での情報交換を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で提案して頂いた意見を共有し、各利用者様のご家族にもお便りとして送らせて頂いています。	コロナ禍、会議を書面で開催し、事業所の概況報告や行事などの取り組み状況を、家族を含め構成員に、議事録として報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症などの流行情報や注意などのパンフレットを頂いたり、研修に参加するなどをしています。	コロナ禍、運営推進会議の書面開催の議事録送付で、事業所の様子を伝えている。市からは感染予防対策などにかかわる資料提供や指導をいただくなど、連携しながら運営にあたっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をして、職員に周知徹底し、身体拘束はしないケアを実践している	身体拘束適正化委員会で、拘束せずに転倒防止などをどのようにして図るかや、行動を抑制する言葉の問題などにどのように対処するかなど、具体的事例を話し合い、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待について理解を深めてもらったり、日々職員同士で「これは虐待にあたらないか」という事を考えながら支援するように指導しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がいるので、その実際を業務の中で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明し、疑問点などについては、その都度対処しています。内容変更などは、速やかに書面や来所時に説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や運営推進会議などで提案された事や要望などは、ご家族へ書面にてお伝えし、随時対応しています。	家族には、コロナ禍、電話による連絡のほか、ホームだよりや運営推進会議の議事録を送付して状況を伝え、その中で意見や要望などを聞くようにしている。面会希望には、ガラス越しで対応し、声が聞きにくい場合には携帯電話を用いるなどして、要望に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて行われますが、代表者の来所時等にも疑問、問題点などについて意見交換をしています。	毎月1回の職員定例会議や日頃の中で、利用者の褥瘡予防などいろいろな課題等について職員から意見や提案が活発に出され、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働ける様、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修を受ける環境を作り、ケアの力量を向上させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会組織のネットワークの中で、相互訪問や勉強会に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に、ご本人様やご家族様からの不安や要望などについて十分に話し合い、良いサービスやケアが出来る様、努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのような生活を希望されているか問題点や要望などを話し合うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の不安や要望に、今何が必要なのかを相談しながら見極め、サービスやケアの内容に活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に私たちの家族という思いで、介助・支援をさせて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の様子などを、お便りや写真などにして、ご家族様にお知らせしています。又、来所時には日々の様子なども丁寧に伝える様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が興味のある事や写真や道具類などを身近に置き、大切にしてきた物を話題に出したりしながら、支援しています。	コロナ禍一時中断しているが、家族や知人・友人などの面会を、馴染みの人や場との関係継続の支援と捉えて支援している。本人の生活歴や生活環境、性格などを把握しておくことが、これらの支援には重要だと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされる事は少なく、皆様と一緒に過ごされています。(利用者様の希望にて)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に転居先へ訪問し、様子を伺いに行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様にアンケート調査を行い、意向や希望を聞き、支援に活かしています。意見表示が難しい人は、ご家族様に聞いたり、カンファレンスで話し合い、把握に努めています。	毎年1回、利用者一人ひとりから気になっていることなどの所定の項目の聞き取りアンケート調査を実施して、思いや意向などを把握し、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を基に、ご本人様の生活史や生活習慣を聞き、経過に応じたサービスを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活内容が分かるチェック表があり、それを見ると水分・食事摂取量・排尿・便・内服などの現状把握が出来る様になっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時にカンファレンスを行い、ケアプランを作成しています。状況に応じたモニタリングをし、変化があった時は、見直しを行っています。	介護計画には支援内容を具体的に明記し、これらに基づき日々のケアを行い、毎月のカンファレンスでは課題などを職員で話し合い、見直しにつなげている。	介護計画と連動した日々のケア記録の仕方についての工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノート等を活用し、職員全員で情報を共有し、見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意見を踏まえ職員間で話し合い、支援の創意工夫に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方や近くのお店などに情報を頂き、支援に協力できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いくつかの病院やクリニックと提携しており、その時の病状に対応した医療が受けられる様、支援しています。	事業所の協力医に月に2回定期的に訪問診療を受けている。皮膚科などの受診が必要なときは、主治医と相談し受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診時に医師の指示を受けています。変化があった場合、速やかに対応を心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中においては、担当看護師やケースワーカーなどと連絡を取ったり、出向いて情報交換や相談をし、利用者様が安心して治療を受けられる様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に関し、ご家族様との話し合いを行っています。	看取りは行わず、食事がとれない、水分がとれないなどの重度化した状況になったときは、入院を視野に対応することを事業所の方針とし、入居当初に家族へ伝えている。そうしたなか、状況によって、特別養護老人ホームなどの紹介も支援の一つとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを提示し、講習や研修などを定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練や消防署指導の下、消火訓練も定期的に行っています。スプリンクラーや自動通報装置、警報装置などの設備も完備しています。地域の方々にも協力をお願いしています。	直近に行った2回は、日中想定で、初期消火、通報、避難誘導の一連の自主訓練を実施した。非常時には、近所の方々の協力がいただけるようになっている。	夜間想定も取り入れた訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人一人に合った対応、言葉掛けを心掛けています。	耳の遠い利用者には、寄りそい、そばで静かに声かけをしている。トイレ介助などにおいては、本人ができること、できないことを見極め、自主性を尊重して必要な介助に努めるなど、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に支援・介助させて頂く際は、ご本人様に確認をしています。言葉が出ない方は表情などを注意深く見たり、思いを探る様に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室、食堂、ホールといつでも自分の居たい場所でくつろげる様に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容はもちろん、美容師による出張カット・整髪などを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人一人の摂取しやすい状態で、季節の旬の食材を使って職員と一緒に楽しく召し上がって頂いてます。行事食などもあります。	法人が運営する3つの事業所で交代で月の献立を作り、これを基本に、専門の職員が手作りで調理し、提供している。利用者の好みのもの、食べやすいもの、季節のものなどを献立に取り入れ、充実した楽しい食事の提供に力を入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、刻み、ミキサー食、お粥など、一人一人の状態に合わせて摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の起床時や毎食後に、口腔ケアをして頂いています。(介助、一部介助)夜間、義歯を預かり消毒しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを職員全員が把握し、その状態に合わせ声掛けや介助をしています。	排泄チェックリストにより、一人ひとりの排泄パターンを把握し、定時やその状態に合わせた適時の声かけ誘導等により、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸剤などを服用され、運動等、リラックスし笑って過ごして頂けるように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前中と決まっていますが、外出受診などもあり、希望される方があれば随時（夜間を除く）入浴出来る様にしています。	1日3名、3日に1回の入浴を目安にして、臨機応変に対応している。同性介助が必要な場合は対応し、身体を自分で洗える人には自主性を尊重していただいている。しょうぶ湯やゆず湯なども取り入れ、ゆったりと穏やかに入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のないように、昼はきちんと離床し、皆様と過ごして頂き、午睡の時間を作ったりしています。いつでも休息は出来る様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の内容について、主治医に相談や確認をし、症状の変化などに注意を払い、内服出来る様に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみを手伝ってもらったり、レクリエーションで運動や歌、ぬり絵などをし、気分転換をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、自粛しておりますが、窓から外を眺めたりと出来る事をするようにしています。	コロナ禍、外出行事は中断しているが、天気の良い日には、近所を散歩したり、庭で日向ぼっこをしたり、鉢植えの花に水をあげたりして、外気浴により気分転換を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本手、お預かりはしていませんが、コロナや遠方に住んでいるご家族からの要望があり、お預かりしている方もいます。事務所で保管しており、領収、出納帳で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話の使用は可能です。手紙のやり取り等が出来る方は支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に沿ったカレンダーを皆で作り、年中行事なども取り入れています。全部屋、日当たりも良く、花などを育て、楽しめる様になっています。	居間兼食堂には、行事などの写真や季節に沿った手作りカレンダーが飾られ、季節感と共に、親しみやすい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はもちろんですが、ホールでテレビを観たり、食堂のテーブルでパズルや将棋などを自由に出来る様になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族に使い慣れた物を持ってきて頂く様、お伝えしています。	居室には、転倒の原因となるようなものは置かないようにしている。使い慣れた、タンス、机、椅子、テレビ、なかには、仏壇も持ち込まれ、また、家族の写真なども飾られて、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレなど大きな字で表示しています。家具など配置も考え、移動されやすいよう、安全に気を付けています。		